

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

激動する時代に「ゼロ・プラス・ワン（0+1）」をモットーに、

学び続け、変わり続けることの出来る生徒を育てる学校をめざします！

本校は、「ゼロ・プラス・ワン（0+1）」を合言葉に、前例にとらわれず「ゼロベース」で考え、失敗を恐れず、失敗してもくじけず、失敗から学んで何度でも立ち上がり、勇気をもって前を向いて一步を踏み出すことのできる生徒を育てたい、育ててほしい、と願っています。また、「言葉のチカラ（言語技術）」を鍛え、論理的思考力・批判的思考力等の21世紀型スキルを身につけます。

① 「知的好奇心のかたまり」 ② 「ゼロベース思考」 ③ 「失敗を恐れないチャレンジャー」

こんな生徒を育てたい、こんな生徒に育ててほしいと願い、学び続け、変わり続ける全教職員が全力でクリエイティブにサポートします！

2 中期的目標

1 学習習慣と生活習慣の確立および基礎学力の定着、進路実現

(1) 全教職員が授業改善に取り組み、アクティブラーニングを積極的に実践して、授業力を磨くとともに、生徒の主体的・能動的に学ぶ姿勢を引き出すことでジェネリック・スキル（汎用的能力）を育成し、進路実現をサポートする。

ア 総合的な探究（学習）の時間を用い、新しいアクティブラーニング型授業「探究」を開発実践し、21世紀型スキルであるジェネリック・スキル（問題発見&解決力、論理的批判的思考力、情報編集力、コミュニケーション能力、表現力など）を磨く。

イ 教員内に定着してきたICT活用を、今後情報委員会を中心としてICTの有効な活用方法について研究する。また、教職員間の意識改革などを通じて、生徒一人ひとりが主体的・能動的に学習できる教授法・学習法を研究していく。

ウ 授業の質を高めることで学力の向上を図る。

※全教職員が他の教員の授業を相互に見学して、意見や情報を交換し、お互いに切磋琢磨して授業の質を高める。

授業見学後の意見交換シートを作成し令和5年度には授業見学率100%（H30=84.6%、R1=81.6%、R2=88.6%）を達成する。

※授業アンケート評価全項目の平均値3.20を維持する。（H30=3.20、R1=3.20、R2=3.27）

※学力生活実態調査の学力指標GTZ（H30.9月：Aゾーン1.5%、Bゾーン41.0%、Cゾーン43.4%、Dゾーン14.1%、R1.9月：Aゾーン1.9%、Bゾーン36.3%、Cゾーン50.0%、Dゾーン11.7%、R2.9月：Aゾーン2.1%、Bゾーン48.1%、Cゾーン41.0%、Dゾーン8.9%）を、令和5年度には国公立難関大学を狙えるAゾーンを3%に、中堅校を狙えるBゾーンを40%に、Dゾーンを10%以下にする。

※本校が進学実績の指標と位置付ける難関校（国公立・関関同立）、私立中堅校の合格者（H30=9人、98人、R1=13人、125人、R2=12人、118人）を、令和5年度に各15人超、120人超とする。

(2) 「言葉のチカラ（言語技術）」を鍛え、21世紀型スキルを身につける。

ア 図書室の役割を強化し、各種の情報発信やビブリオバトルの取組みを強化していく。

※図書館の生徒貸出数（H30=442冊、R1=376冊、R2=569冊）を令和5年度には900冊とする。

※高校ビブリオ西日本大会（R1現在6大会連続出場、R2中止）、中高生ビブリオバトル大阪大会（R1現在5大会連続出場、R2中止）毎年連続出場更新し、令和5年度までに大会決勝に出場することをめざす。

イ ソーシャルスキル（傾聴力、アンガーマネジメントなどエモーショナルリテラシー）やメディアリテラシーの育成

※教員向け各種研修を実施し（毎年3回以上）、また生徒向けにも実施する。

(3) 修学旅行の充実

ア 情報の授業と連携し、情報収集能力およびプレゼンテーション能力を鍛える。また、その地域の気候・産業・文化等も研究し単なる観光に終わらせない充実した修学旅行を体験させる。

※令和5年度に実施後のアンケートすべての項目の最上位評価の平均75%以上（H30=71.3%、R1=75.7%、R2=75.2%）を維持する。

(4) 国際感覚を身につける。

ア オーストラリア語学研修の実施を継続する。

※継続的实施および発表の機会の充実をめざす。コロナ禍で実施できない場合には代替の取組みを考える。

2 安全安心な学校づくり

(1) 安全安心な学園環境を整える

ア 学校付近の厳しい交通環境の中、通学路における自転車事故ゼロをめざす。

当面前年度より減少させることを目標とする。（H30=47件、R1=39件、R2=37件）

(2) 人権教育の充実

ア HRや総合的な探究の時間を活用し、他者を思いやる人権意識の向上を図る。

※学校教育自己診断（生徒）「生徒間でお互いを尊重する雰囲気がある」（H30=72.6%、R1=72.2%、R2=75.8%）を令和5年度に80%以上にする

(3) 教育相談体制、サポートの充実

ア SSW（スクール・ソーシャルワーカー）と SC（スクールカウンセラー）を活用して支援態勢をサポートする。

イ 障がいのある生徒の自立と進路実現を目標に日常をサポートしていく。

※本校独自に SSW を招聘し、定期的にケース会議を開催（H30=10 回、R1=10 回、R2=6 回）。

本年度から令和 5 年度まで SSW の参加しているケース会議年 6 回実施。

(4) 地域連携や、部活動・生徒会活動の活性化

ア 地域に支持される学校をめざす。

吹奏楽部、軽音楽部、ボランティア部、ほか各クラブや、芸術科、家庭科などの授業でも、地域や保護者、周辺施設と協働して交流を深めると同時に、生徒に、さまざまに活躍できる場を提供する。

イ 生徒の自主性を尊重し、「生徒が主役」の生徒会、学校行事、HR 活動、委員会活動、部活動をサポートする。

※令和 5 年度に学校教育自己診断（生徒）「学校行事等が自主的に運営されている」（H30=83.9%、R1=81.2%、R2=81.9%）「部活動は活発である」（H29=82.3%、H30=84.7%、R1=84.2%、R2=85.9%）を肯定値 85%にする。

ウ 学校説明会を充実させる。

※令和 5 年度に実施後のアンケートの最上位評価 80%にする。（H30=81.7%、R1=81.9%、R2=67.1%）

3 教職員の働き方改革

(1) 時間外勤務の削減

ア 月の時間外勤務 80 時間超の延べ人数を削減する。令和元年度より減少させる。（H30=62 人、R1=60 人、R2=54 人）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 3 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価
1 学習習慣と生活習慣の確立および基礎学力の定着、進路実現	<p>(1) 授業改善し、基礎学力の定着・進路実現を支援 ア 授業アンケートおよび ICT 活用による授業改善を推進 イ 生徒のデータによる状況把握と学習支援プランの作成と実践</p> <p>(2) 「言葉のチカラ（言語技術）」を鍛え、21世紀型スキルを身につける。</p> <p>(3) 修学旅行の充実</p> <p>(4) 国際感覚を身につける。</p>	<p>(1) ア・全教員が他の実験授業を観察、助言しあい、授業見学シートを用いて成果検証を行い、教科会議等を通して改善点について全教員で情報を共有する（9～1月）。 ・教員が他校や教育産業の研究授業や研修等に積極的に参加し、自身の授業改善はもとより教科でも情報共有を行うことにより教科授業力の向上につなげる。 ・第1回の授業アンケート（7月）で個人のシートを用い各教員が課題を把握し、教科会議で教科シートの検討し、第2回（12月）での改善を推進、次年度計画に活かす。 イ 進路指導部主導で学力指標 GTZ の分析をし、また、教科データにより各教科の弱点を各教科で把握する。進路指導部が成績を分析し、学年と連携をして3年間を見通した進路指導を行い、進路実現をサポートしていく。</p> <p>(2) ア 探究の授業での図書館の活用を促進し、図書室の役割を強化し、各種の情報発信やビブリオバトルの取組みを強化していく。 イ ソーシャルスキル（傾聴力ピアリスニング、アンガーマネジメントほかエモーショナル・リテラシー等）やファシリテーションスキル向上などを目的とした各種の研修を教員向けに実施</p> <p>(3) ア 情報の授業と連携し、情報収集能力およびプレゼンテーション能力を鍛える。また、その地域の気候・産業・文化等も研究し単なる観光に終わらせない充実した修学旅行を体験させる。</p> <p>(4) ア 昨年まで3校合同で実施していたオーストラリア語学研修の意義を継続し、本校独自で国内での語学研修を実施する。それに向けて事前学習を実施、事後に発表の機会を通して内容の充実を図る。</p>	<p>(1) ア・授業アンケート（12月）全項目の平均 3.27 を維持する。[3.27] ・進学に係わる教科を中心に計 25 回の研究授業や研修等への参加を行う。 ・学校教育自己診断 ICT 関連項目（生徒）の肯定値 90%以上維持をめざす。[90.5%] イ・教育産業の学力指標 GTZ について 国公立難関大学を狙える A ゾーンは 2.5% 中堅校を狙える B ゾーン以上は 45%以上維持する。 D ゾーンは 10%以下を維持する。 [9月:Aゾーン=2.1%, Bゾーン=48.1%, Cゾーン=41.0%, Dゾーン=8.9%] ・難関校（国公立・関関同立）の合格者 12 名以上とする。[12人] ・私立中堅校の合格者を 120 人以上とする。[118人] ・現役大学進学率 52%をめざす[50.8%] ・進路希望実現率を 80%以上にする。[79.9%]。 ・進学実績が向上している学校視察を年間 2 回実施する。</p> <p>(2) ア・図書室生徒貸出数、R3 ≥600 冊を目標とする。[567 冊] ・高校ビブリオ西日本大会（7年連続）、中高生ビブリオバトル大阪大会（6年連続）出場 イ 教員向け研修、年 3 回以上実施[3回]</p> <p>(3) ア 修学旅行アンケート評価すべての項目の最上位評価の平均 75%以上維持する。[75.2%]</p> <p>(4) ア 語学研修の実施継続</p>	
2 安全安心な学校づくりと環境整備	<p>(1) 安全安心な学園環境を整える ア 通学路など学園内外での安全安心の確保</p> <p>(2) 人権意識の向上</p> <p>(3) 教育相談体制、サポートの充実 ア SSW のケース会議で教育相談支援</p> <p>(4) 地域に支持される学校 ア 生徒が主役の学校づくり イ 学校説明会の充実</p>	<p>(1) ア 警察と連携し、交通安全指導を実施。1年生の通学指導を強化し、通学路での事故を無くす。</p> <p>(2) ア HR や総合的な探究の時間を活用し、人権 HR・SNS の利用法研修等を実施することにより、他者を思いやる人権意識の向上を図る。</p> <p>(3) ア SSW 中心のケース会議を年 6 回開催して学級運営や学習支援をバックアップする。また、1（2）とも関連させて相談しやすい雰囲気を作るため SC による職員の傾聴力向上のための研修も実施する。</p> <p>(4) ア 「生徒が主役」の生徒会執行部、HR 活動、委員会活動、部活動、行事をめざすべく、教師の意識改革を促す。教師はあくまで黒子で、陰のサポート役に徹する。 イ 学校説明会の内容の充実を図る。</p>	<p>(1) ア 自転車通学の事故ゼロをめざす。警察との連携による登校指導などの実施や探究の時間の活用し、交通安全を考えることを通して事故総数を R2 より減少させる。[事故総数 37 件]</p> <p>(2) ア 学校教育自己診断（生徒）「生徒間でお互いを尊重する雰囲気がある」肯定値 78%をめざす。[75.8%]</p> <p>(3) ア・SSW ケース会議を年 6 回で開催 [6回] ・緊急時には臨時で SSW を招聘し、ケース会議を開催 ・SC による研修の実施</p> <p>(4) ア 学校教育自己診断「生徒会等の諸行事において、自主的に運営されている。」生徒の肯定的回答 85%以上にする。[81.9%] イ 来校者アンケートの「内容は参考になりましたか」の最上位肯定値 80%以上をめざす。[67.1%]</p>	
3 改革 教職員の働き方	<p>(1) 時間外勤務の削減 ア 月の時間外勤務 80 時間超の延べ人数を削減する。令和 2 年度より減少させる。</p>	<p>(1) ア ノークラブデー・ノー残業デーを徹底することにより時間外勤務を削減する。</p>	<p>(1) ア 令和 3 年度 4 月～2 月に月 80 時間超の時間外勤務の人数を昨年度より減少させる。[54人]</p>	